

琉球大学学術リポジトリ

Ryudai News Letter `13(Vol.16)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 琉球大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002020338

Ryudai

[琉大ニュースレター]

琉球大学の事業や各学部が取組が分かる!



News Letter'13

琉球大学
附属図書館
蔵書印
寄贈受付

禁帯出
377.28
RY
16
中縄資料室



琉大オリジナルシーサー
(西村 貞雄名誉教授デザイン)

- p 2 大城肇学長あいさつ
- p 3 琉大創生プラン(骨子) ~琉大の力と個性の発揮!!~
- p 4 教育・研究
- p 7 就職
- p 9 管理運営
- p11 社会連携
- p15 国際交流
- p17 受賞等
- p18 その他
- p19 法人情報公開

琉球大学附属図書館



0020138085916

Vol.16

2013.09

知の創造と知の津梁の息吹を



琉球大学長 大城 肇

平成25年4月1日付けで第16代学長として就任し、無事、船出することができました。しかし、漕ぎだした外海は、大学改革という大きな嵐が吹き荒れています。「大学改革実行集中期間」として位置づけられた平成25年度から29年度までの5年間で、琉球大学は、大学の使命と役割を改めて見直し、強みや特色を発揮した大学の機能強化（ブランド化）を進めていかなければなりません。

具体的には、グローバル・リーダーの育成・輩出、学生の皆さんにどのような力や知識が身につくのかということに重点を置いた教育への質的転換、社会人の学び直し機能の強化、イノベーション創出によって社会を牽引する教育と研究の環境づくり、大学のガバナンス改革などによって、大学のあり方を変え教育を再生することが求められています。

このような中、大学の広報のあり方も問われていると言えます。これまでの事後的なイベントの報告に重きを置いた広報伝達から、大学の価値を高め、「琉球大学」というブランドを創り上げるための広報でなければならないと考えています。

琉球大学という大学の魅力をアップさせ、国内外から自己を磨き自分の力を100%発揮したいと思う学生諸君が、学びたくなるようなキャンパスづくりにつながる広報活動を展開していきます。また、琉大ブランドを受験生や社会に分かりやすく、伝わりやすくする戦略的な広報に努め、積極的な情報公開はもとより、社会への説明責任（アカウンタビリティ）を最大限に果たしていきます。

琉球大学は、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点大学」を目指し、アジア・太平洋域における知の創造と知の津梁としての琉大を創生していくこととしています。「琉大ニュースレター」によって、そのような琉球大学のチャレンジの息吹を感じ取っていただきたいと切に願っております。

琉大創生プラン(骨子) ~琉大の力と個性の発揮!!~

【運営方針】.....

◎大学運営の基本

- ◇リーダーシップを発揮した大学運営
- ◇大学構成員との対話の重視
- ◇次代を担う若手教職員の参画及び男女共同参画
- ◇学内外の力・エネルギーの結集による清新な大学の創生

◎ビジョン実現の原動力

- ◇第三期中期目標・中期計画のベースとなる「琉大創生プラン」の提示と「琉球大学の力」を原動力とした第二期中期目標・中期計画の着実な実施
- ◇「琉球大学の力」としての「教育力」、「研究力」、「学生力」、「地域力」、「国際力」、「組織力」、「自律力」を創造・発揮し、職場環境整備プラン、教育支援プラン、研究支援プラン、地域連携プラン、国際連携プラン及び管理運営プランを内容とする「琉大創生プラン」で明示したビジョンの実現

【主要施策】.....

◎職場環境整備プラン=「自律力」の発揮

- ◇高い職業倫理及び研究者倫理を持つ環境の整備
- ◇研究不正、ハラスメント等に対する厳正な対処
- ◇社会的責任を果たし、地域社会から信頼される大学運営

◎教育支援プラン=「教育力」と「学生力」の向上

- ◇URGCCの推進、学生の主体的な学びを確立する全学的な教学マネジメントの展開
- ◇国際通用性をもつ大学院課程の教育力と研究力の涵養
- ◇授業料免除や就職、留学等の学生支援の強化と全学的な修学支援システムの整備

◎研究支援プラン=国際水準の「研究力」の強化

- ◇普遍的な基礎研究、本学の特色となる研究、国際共同研究、全学横断型融合研究の推進
- ◇若手研究者、女性研究者及び外国人研究者の支援
- ◇外部資金獲得のための積極的なトップセールス
- ◇本学の研究成果を凝集した琉大ブランドの開発推進

◎地域連携プラン=「地域力」の発揮

- ◇沖縄振興や地域の学力向上、産学官連携による産業振興、地域完結医療体制の構築等の地域課題解決のため県内各界との連携・協力体制の強化
- ◇知の社会還元を基軸とした地域連携・社会貢献の推進
- ◇琉大サテライト・キャンパスの県内外拠点地域への設置

◎国際連携プラン=「国際力」の強化

- ◇本学のグローバル・ネットワークを活用した大学づくりの推進
- ◇環太平洋大学コンソーシアムの形成

◎管理運営プラン=「組織力」と「自律力」の発揮

- ◇教員と一般職員の協調・連携による創造的で自立的発展のための大学運営
- ◇効率的で魅力ある教育研究組織の計画的な再編・拡充
- ◇教育、研究、地域連携、国際連携を推進する全学的な支援機構の設置
- ◇企画・経営戦略機能強化のための経営戦略部門の設置
- ◇一般職員の職場環境の改善と充実した研修の実施
- ◇学内資源(人材、財源、施設・設備、空間)の有機的な活用と効率的な大学マネジメント
- ◇中期計画達成経費やアメニティ改善経費の確保及び効果的配分
- ◇環境エコマネジメントを推進し、省エネの太陽光発電やLED使用等による経費節減や効率化の着実な推進
- ◇国内唯一の亜熱帯・熱帯の特性を生かした研究の推進、高額測定機器の共有化等による研究支援
- ◇遠隔医療・授業の推進、防災システムの確立及びデータバックアップセンターの誘致
- ◇国際会議の誘致及び各種学会の開催支援システムの構築
- ◇教育研究機能を高める施設整備の推進



教育・研究

p 4



就職

p 7



管理運営

p 9



社会連携

p11



国際交流

p15



受賞等

p17



その他

p18

教育・研究

農学部「琉球泡盛古酒の郷サテライト研究室」の設置について共同記者発表

琉球大学農学部と協同組合琉球泡盛古酒の郷では琉球泡盛古酒の発展に寄与する目的で、「琉球大学農学部琉球泡盛古酒の郷サテライト研究室」を同泡盛古酒の郷管理棟へ設置する使用貸借契約を締結し、平成 25 年 2 月 28 日、県庁 5 階記者会見室にて、共同記者発表を行いました。

記者発表には、琉球大学から、川本康博農学部長、外山博英教授が、古酒の郷から松田亮理事長、又吉良秀専務理事が出席、挨拶の中で、川本農学部長は、「琉球泡盛古酒が県外でも高い評価を得られるよう研究の面から支援したい。」と抱負を述べました。

なお、古酒の郷は、うるま市の特別自由貿易地域に管理棟と貯蔵庫 1 棟が完成、サテライト研究室では熟成、貯蔵に係る学術的研究を産学官が連携して進めることとなります。



(左から) 外山教授、川本農学部長、松田理事長、又吉専務理事

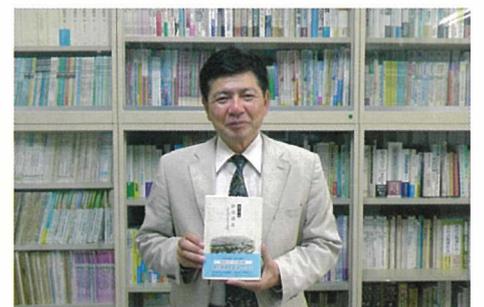
琉球大学編『知の源泉 やわらかい南の学と思想・第5巻』を発行

琉球大学は、建学の精神である「自由平等・寛容平和」を継承発展させて、「真理の探究」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念としています。困難な時代にも、地域や世界の人々へ、「知の力」を結集して発信し、貢献してまいりました。本書の発行もその一つです。『やわらかい南の学と思想』と題して、2008 年第 1 巻の発行以来、琉球大学に蓄積された研究の成果を、分かりやすく社会へ還元することを目的として発行されてきました。多くの読者の支持を得て、今回第 5 巻を編集発行することが出来ることを嬉しく思います。

本書のいずれの論考も興味深く示唆に富み、今日の現状を照射するものです。本書が現在や過去を考え、未来を考える契機や指針になることは間違いありません。

本書の発行にあたっては、編集委員各位のご尽力及び執筆者各位のご協力がありました。あらためて感謝申し上げます。

また、教育の場などで本書をご活用していただけるならば幸いに存じます。



編集委員長の大城貞俊 教授 (教育学部)

情報社会と情報倫理の名護青少年の家宿泊講義を実施

情報工学科では、6月29日、30日に名護青少年の家での道徳的なテーマを中心とした宿泊集中講義を実施しました。

参加者は、学生68名、教員、穂苅先生、先輩等スタッフ11名計79名です。この講義は、工学部後援会の特別教育研究活動経費の補助を頂き、毎年実施し本年度で6年目となりました。



穂苅満雄先生講義の様子

1日目6月29日午後には、公益財団法人モラロジー研究所・社会教育講師および琉球大学非常勤講師である穂苅満雄先生により、道徳的関連を実施しました。講義のキーワードを紹介すると、

- ①人生、②挨拶、③学習成立条件、④礼節、⑤言葉とコミュニケーション、⑥異質体験、⑦品性、⑧人柄、⑨人生は選択の連続、⑩価値観、⑪心の特質、⑫リーダーとは、⑬幸福感、⑭幸せ、⑮生きがい

などで、中国古典などの引用も多数あり、日常の講義とは異なる講義を真剣に受講し、日々の生活を見直す講義となりました。

宿泊集中講義は今年度で6年目ということで、夜には、例年の映画鑑賞は取りやめ、内容をリニューアルし、「他人をほめて伸ばす」大切さのビデオ鑑賞をした後に、8つのキーワードの大切さを議論し、順序付けを行うグループワークを行いました。その8つのキーワードは以下です。

- ①愛、②健康安全、③正義、④富、⑤楽しみ、⑥奉仕、⑦名声、⑧自己表現

各グループは言葉の意味の定義から議論等を始め、各自の考えの紹介などを経て、夕食後から就寝までの長時間のグループワークに取り組みました。昨年までは、課題映画をみて、グループワークでの話し合いがその後でしたので、今年度はグループで話す時間をより長くとることができ、また1泊同室での議論ということで、中身の濃い深い結果を導き、良い発表ができたチームが多数ありました。

2日目6月30日午前、各グループでポスターの作成を行い、掲示し、3分のミニプレゼンを行い、シンプルな課題ではありますが、非常に長時間の話し合いの結果を感じることができました。



宿泊集中講義参加学生一同での記念写真

①愛、②健康安全、③正義、④富、⑤楽しみ、⑥奉仕、⑦名声、⑧自己表現なる8つのキーワードの順序付けという課題としては単純ですが、日頃あまり考えていない内容でもあり、学生達は苦労したようです。話し合いの途中に、中間発表、先生やその他の人々への意見インタビューなども企画されており、楽しみながら異質な体験を全員で実行できたように思います。実は、今年度のグループワークの企画は、宮里先生の研究室の学生達に企画してもらい、グループワークの事前用意から、発表のサポートまでをやって頂き、大活躍してもらいました。準備の甲斐もあって、大変内容の深い内容になったように思いました。

最後に、穂苅先生のまとめ講義を行い、皆で青少年の家を清掃し、プログラムを終了いたしました。

穂苅先生より、今年度の参加学生は、真面目で、挨拶もできる学生も多く、質が向上しているとの、感想を頂きました。特に、宿泊明けの2日目ですが、最終講義時間も居眠りするものはほとんどおらず、真剣な雰囲気での講義時間をもつことができました。

最後に、活動資金を寄付頂いている、工学部後援会企業の皆様に紙面を借りてお礼を申し上げます！

琉球大学新技術説明会を開催

★開会あいさつ①	社会連携担当副学長・産学官連携推進機構長	仲座 栄三
★開会あいさつ②	独立行政法人科学技術振興機構 理事	小原 満穂
★琉球大学の取り組み 研究成果の産学官連携への効率的活用	産学官連携推進機構	教授 近藤 義和
1. 玄米有効成分 を活用したアンチメタボ 健康補助食品の開発	大学院医学研究科医科学専攻	教授 益崎 裕章
2. 低栄養要求性および耐熱性を兼ね備えた乳酸菌によるスクロースの高速発酵	工学部機械システム工学科	教授 柴田 信一
3. ポスターセッション		
4. 大気圧低温プラズマ生成装置の開発および滅菌への応用	工学部電気電子工学科	教授 米須 章
5. 蓄電池能力を最大利用可能な最適充放電計画	工学部電気電子工学科	教授 千住 智信
6. 知的情報処理：音響・音楽信号の分析・認識・検索、医用画像処理	工学部電気電子工学科	准教授 姜 東植
7. 青色半導体レーザーによるフレキシブルパネル上 Si 結晶化薄膜の製法と機能デバイスへの応用	工学部電気電子工学科	教授 野口 隆
★閉会あいさつ	産学官連携推進機構	副機構長 多和田 眞吉

今回で6回目、単独開催では5回目の新技術説明会を東京・市ヶ谷のJST別館ホールにてJST（科学技術振興機構）との合同主催で開催いたしました。説明会には延べ274人ほどの民間企業等の方々の来場があり、研究成果の産学官連携への効率的活用をテーマとした本学の取り組みを紹介しました。また、研究者自ら、セッション講演を行い、ライフサイエンス、環境エネルギー、材料・デバイス・装置、計測・分析などのライセンス、



主催者挨拶 仲座機構長（情報・防災・産学連携担当 副学長）



主催者挨拶 小原科学技術振興機構理事

共同研究可能な技術の研究成果を広く紹介、講演後には来場した多くの企業等からの個別相談や研究シーズに対する情報交換も行われました。

本学は産学連携活動を進める上で、このような機会を活用して、技術移転や共同研究に積極的に取り組んでいきます。なお、開催にあたり多大なご支援とご協力をいただきました JST（科学技術振興機構）並びに登壇者の皆様方へ感謝申し上げます。

大瀧准教授の研究発表がNatureに紹介

2013年7月8日に、米国シカゴにて開催された The Society for Molecular Biology and Evolution (SMBE) の年会にて、大瀧丈二准教授がヤマトシジミへの放射線影響に関する研究発表を行いました。その発表内容が、7月16日付け“Nature”誌に紹介されました。関連原著論文は、昨年のメディアに取り上げられた論文の世界ランキング1位になるなど、国際的に高い関心を集めています。

Nature の記事

<http://www.nature.com/news/fukushima-offers-real-time-ecolab-1.13395>

Nature News Blog の記事

<http://blogs.nature.com/news/2012/12/what-were-the-top-papers-of-2012-on-social-media.html>

関連研究論文

<http://www.nature.com/srep/2012/120809/srep00570/full/srep00570.html>

原著論文：Scientific Reports, 2, Article number: 570 doi:10.1038/srep00570

The biological impacts of the Fukushima nuclear accident on the pale grass blue butterfly

Atsuki Hiyama, Chiyo Nohara, Seira Kinjo, Wataru Taira, Shinichi Gima, Akira Tanahara & Joji M. Otaki



就職

第4回海外職場体験ツアーをシンガポールで実施

最近、日本の若者が内向き志向になったと言われています。特に沖縄県では、就職に関して内向きで県内志向の強い学生が多いようです。しかし、県内の求人数は限られています。もしかすると、自分に最も合う仕事、活躍できる職場は、県外、あるいは国外にあるかも知れません。また、グローバル化が加速している今の世の中、沖縄や日本だけでビジネスが完結することはだんだん減ってきており、これから社会に出る若者たちは常に世界に向けてアンテナを張っている必要があります。

そのようなわけで、「アジア・太平洋地域との連携を中心として世界に開かれた大学」を理念として掲げ、「地域社会及び国際社会に貢献する人材」「国際社会で活躍する人材」を養成する大学である琉球

大学として、経済成長著しいアジアの社会にも目も向けるべく、2年前から、夏休み・春休み期間を利用して、就職センター主催による「海外職場体験ツアー」を行なっています。今般、4回目として、応募学生11名から、エントリーシートと面接により4名を厳選し、平成25年3月3日～10日の間、シンガポールに派遣しました。今回の人員構成は、医学部医学科男子2名、教育学部学校教育教員養成課程女子2名となりました。いずれも、学生のうちに広く世界を体験して、それをそれぞれの職（医師・教員）に活かしたいという強い意思を持つ学生でした。

JETRO シンガポール事務所では、所長によりシンガポール経済の概況に関する説明を受け、学生による質疑



シンガポールの学生と日本語でディスカッション
シンガポール国立大学の教室にて

が行われました。シンガポールでは将来を見据えて、国策により国内の外国人の数をコントロールしながら経済を維持発展させていますが、この点が「単一民族国家」で外国人に対して閉鎖的な日本と大きく異なっています。

また今回、医学生が参加しているということで、日本人医師が勤務する現地医療法人ヘルスウェイ・メディカルセンターを訪問し、家庭総合医である佐藤医師からシンガポールの医療事情について詳しく知る機会を得ました。

沖縄県出身の坂田恵子氏が創業した沖縄料理店「ミミガー」では、坂田社長自ら、創業に至る経緯や、人を想いながら料理することの重要性、定休日には人脈作りや料理の勉強を兼ねて食べ歩いていることなどについて、熱く説いてくれました。また、もう一軒の沖縄料理店「ニライカナイ」では、琉大・冲国大からのワークホリデー(WH)生が働いており、海外に出ることになったきっかけ等について話を聞くなど、参加学生との交流を行いました。

期間中の1日はシンガポール国立大学(NUS)を訪問し、学生間交流を行いました。日本語を勉強している学生を対象として、4名がそれぞれ用意した日本・沖縄の社会・文化の紹介のためのプレゼンテーションを行い、また、日本・シンガポール相互の社会や学校制度の違い、学生の考え方の違いなどに関してディスカッションが行われました。NUS生はわずか3年間日本語を学習するだけで日本人学生と対等にディスカッションできるまでに上達しています。シンガポールでは3ヶ国語話せるのは当たり前とのことです。この日のスケジュールは全て、参加学生が自主的に計画を立て、双方の学生同士が事前に連絡を取り合い、大学の授業時間なども考慮しながら相談して決めるようにしました。

なお、今回の参加者による報告は、共通教育総合科目「キャリア形成入門」の授業の中の、「アジアを学ぶ」の回の中で行なわれます。同様な海外短期派遣は、沖縄県主催の海外ジョブチャレンジ事業でも行われており、平成24年度は夏春合わせて100名を超える県内大学生・短大生・高専生・専門学校生が5～6名ずつのチームに分かれて、上海・香港・マレーシア・シンガポール・ベトナムに派遣されました。こちらの事業にも多くの琉大生が参加しました。このような短期研修がきっかけとなって、さらに長期間の本格的な海外インターンシップや留学に挑戦する学生も徐々に増えてきています。中には、WHビザを取得して働きながら語学学校にも通う「一石二鳥学生」もいます。「自分も海外を体験してみたい」「今の自分から一歩踏み出したい」「海外に関心はあるがきっかけがほしい」という人は、次の機会に是非チャレンジしてみてください。但し、行きたい人は海外事情と語学(英語は勿論のこと、できれば中国語も)の勉強をくれぐれも怠りなく！

工学部後援会主催就職説明会報告

琉球大学工学部後援会は、5月22日および5月29日(午後1時から5時)に後援会会員企業による就職説明会を琉球大学工学部1号館ロビーにて開催しました。両日あわせて25社に参加いただき、参加学生数は111名でした。



説明会の様子

参加企業の方々は学生に対して長時間に亘る丁寧な説明をくださり、学生はそれを真摯に受け止める、という姿からお互いの意気込みを感じさせられました。学生へのインタビューでは「企業の方としっかり話す機会を持って、自分の就職活動に弾みがついた。」「働いている人にしかわからないことを聞いて勉強になった。」などの声があり、学生にとって有益な機会となりました。

今回も来春卒業予定の学部4年生と修士2年生だけでなく、学部3年生や修士1年生も参加しており、キャリア意識啓蒙にも効果があったようです。また既卒の参加者もあり、大学で就職活動ができるメリットは大きいようでした。

今回、梅雨の蒸し暑い時期に空調のないロビーでの実施でした。参加企業の方々や学生に決して快適と言えない環境となり、開催時期や場所についての問題点を改めて認識しました。参加企業の方からは開催時期、暑苦しくない服装の励行などのご提案もあり、本就職説明会が最大限の効果を上げる工夫を検討していきたいと思ます。

今後も後援会会員企業と学生の直接的接点となる就職説明会を活性化させ、さらに有意義なものとなるよう工学部教職員一同努力いたします。

管理運営

平成25年度一般入試(前期日程等)合格発表

3月7日午前11時、平成25年度一般入試(前期日程等)の合格発表が行われ、法文学部棟前広場に合格者の受験番号が掲示されました。



合格発表の様子

平成24年度琉球大学卒業式・大学院修了式

平成25年3月21日、平成24年度卒業式・大学院修了式が沖縄コンベンションセンター展示棟(宜野湾市)で行われ、学部生1,445名、大学院生310名、専攻科生11名の門出を、大勢の保護者が出席して祝福しました。

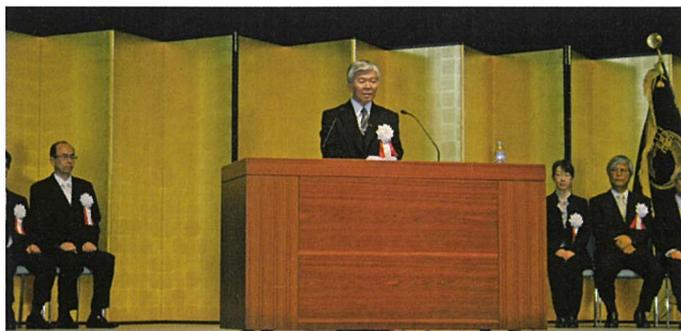
卒業生代表の観光産業科学部の中村竜瞳さん及び修了生代表の教育学研究科の幸地悠作さんが、答辞を述べ、式後には、会場の外で記念撮影を行ったり、後輩との別れを惜しむ姿が見られました。

平成25年度琉球大学入学式・大学院入学式

4月3日、琉球大学入学式及び大学院入学式が沖縄コンベンションセンター展示棟(宜野湾市)で開催されました。

本年度の入学生は、学部学生1,645名、大学院生325名、の合計1,970名です。

なお、学部入学生代表宣誓を、医学部医学科の下門裕弥さん、大学院入学生代表宣誓を、教育学研究科の盛山諭さんが行いました。



学長告辞



会場の様子

医学部附属病院病児保育室「ゆくる一む」で看板上掲式

琉球大学医学部附属病院病児保育室「ゆくる一む」で、去る5月13日に看板上掲式が行われました。

上掲式では病児保育室ワーキンググループを代表して、周産母子センターの吉田朝秀講師による概要説明、村山貞之附属病院長の挨拶に続き、附属病院長と太田孝男周産母子センター長により看板が上掲されました。

病児保育室は周産母子センターが行っている事業「周産期専門医育成プログラム」の一つとして、設置することとなりました。病児保育室では一般の保育施設では保育を行えない病中、病後児に対して、緊急の職務環境調整や自宅での療育環境調整までの期間、保育士、看護師による保育業務を行うことにより、保護者である職員の子育てと就労の両立を支援することを目的としています。これにより周産期専門医の就労支援に止まらず、職員の就労支援、復職支援を行うことが可能となりました。

保育室名の「ゆくる一む」の「ゆくる」とは、「休む」、「休息をとる。」を意味する沖縄の言葉。子供達の心と体を一休みさせる場所になる様にと願って名付けられました。



左から村山貞之 附属病院長、太田孝男 周産母子センター長

平成25年度名誉教授称号授与式を開催

開学記念日の5月22日、平成25年度名誉教授称号授与式が本部棟第一会議室にて行われました。

授与式では、歴代名誉教授、役員及び学部長等が列席するなか、大城肇学長から被授与者一人ひとりに名誉教授の称号が授与されました。



称号授与式の後の記念撮影

エコクリーンデー in 琉大を実施

学生と教職員による全学一斉清掃（エコクリーンデー）を7月17日に実施しました。当日は、清掃を行うには昨年同様かなり過酷な条件となりましたが、午後3時から約2時間の清掃作業に多数の参加がありました。

実施に先立ち、本部棟前でエコロジカル・キャンパス推進委員会副委員長の堤純一郎教授から挨拶がありました。

参加者は、それぞれの所属の施設周囲（清掃範囲）のゴミ拾い、草刈などを熱中症対策に気をつけながら行いました。



清掃の様子

平成25年度オープンキャンパス開催

平成 25 年度琉球大学オープンキャンパスが、各学部、大学会館及び中央食堂を会場に、7月20日に実施され、高校生、進路指導員、父兄等延べ5,995人が参加しました。

当日、各学部、学科がそれぞれ工夫を凝らし、説明会や模擬授業、体験ツアー等を行いました。大学会館では、「進研模試による大学合格必勝講座」及び「学校教諭・保護者向け大学説明会」が行われ、参加者が熱心に聞き入っていました。

また、中央食堂では、「学生生活相談コーナー（カリキュラム、学寮、奨学金、授業料免除、就職、留学等）」や「九州地区国立大学進学相談会」を同時開催しました。



お目当ての各学部等へ



学校教諭・保護者向け大学説明会

社会連携

「新聞活用実践講座」開設で教育学部と琉球新報社が覚書締結

琉球大学教育学部と琉球新報社の「新聞活用実践講座」開設を目指した連携の覚書調印式が、平成25年3月22日、教育学部長室で行われました。

調印式には、本学から、井上教育学部長、平良事務長、小田切評議員、福田教育・研究企画委員会委員長及び萩野同副委員長が、琉球新報社から、坂名城取締役編集局長、普久原編集局次長、座波編集局NIE推進室員大城同室員及び同社マスコットキャラクターの「りゅうちゃん」が出席しました。

調印後の挨拶で、井上学部長は、「将来に向けて協力し合い、共に成果を共有していきたい」と、また、坂名城編集局長は、「この実践講座は、画期的なものです。本講座を受講する学生へ世の中を見るヒントとなれば幸いです。」と、それぞれ抱負を述べました。



第12回中部あじま一会 定期総会に参加

5月10日、琉球大学西原口において、中部あじま一会の第12回定期総会が開催され、施設運営部の施設企画課長 吉留義宗が、大学周辺の良好な環境作りについての感謝の挨拶を述べました。

中部あじま一会は、地域で道路美化活動を行うボランティアグループで、12年前に沖縄県中部土木事務所のOBが中心となり結成され、県道34号線沿いの草刈りや本学西原口前（あじま一広場）で、花の植え付けなどの環境美化活動に取り組んでいます。

なお、総会には、沖縄県中部土木事務所 技術総括の伊佐実春氏も参加し、あじま一会の皆さんを激励しました。



大学周辺の環境整備に貢献！！～中部あじま一会～

琉大21世紀フォーラムを開催

▲第70回

日 時：平成25年5月24日（金）17:15～19:00

場 所：琉球大学学生会館3階ホール

テーマ：「沖縄からはじまる海洋創成
ー海の恵みを未来の環境・エネルギーのためにー」

発表者：瀬名波 出（琉球大学工学部 准教授）

▲第71回

日 時：平成25年5月31日（金）17:30～19:00

場 所：琉球大学学生会館3階ホール

テーマ：「星ぼしをめぐる無数の惑星・宇宙に生命は存在するか？」

発表者：海部 宣男（IAU（国際天文学連合）会長、元国立天文台長）

▲第72回（特別企画）

琉球大学シンポジウム

～地域から期待される大学の実現～

日 時：平成25年7月13日（土）13:30～16:00

場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

基調報告：「琉球大学の構想について」（大城 肇 琉球大学学長）

パネルディスカッション：

「現状と課題」「今後求められる人材像」「琉球大学への期待」など

パネリスト：川満 誠一（沖縄県企画部企画調整統括監）

安里 昌利（一般社団法人 沖縄経営者協会会長）

又吉 真由美（えんグループ代表）

益戸 正樹（公益社団法人 経済同友会 教育改革委員会 副委員長、
パークレイズ証券株式会社 顧問）

川満 栄長（竹富町長）

大城 肇（琉球大学学長）

コーディネーター：仲本 しのぶ（市民介護相談員なは代表）
総合司会 下地 芳郎（琉球大学学長補佐、教授）

▲第73回

日 時：平成25年8月2日（金）15：00～16：30

場 所：琉球大学本部棟4階第一会議室

テーマ：実効性のある評価を目指して

～法人評価と認証評価を見据えた自己評価の在り方～

講 師：岡本 和夫（(独) 大学評価・学位授与機構理事）

琉球大学附属図書館、国立公文書館アジア歴史資料センターとシステム連携協定を締結

琉球大学附属図書館と国立公文書館アジア歴史資料センター（アジ歴）は、両者の資料公開についての連携協定を締結し、5月28日に協定書の調印式が挙行されました。

本協定は、アジ歴のデータベースで同図書館の資料の検索を可能とするためのもので、検索結果からは同図書館にて公開中のデジタル画像が閲覧できるようになります。今回の取組では同図書館の「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」にて既に公開中の「宮良殿内文庫」が対象となり、調印式当日をもってアジ歴HPにて公開されました。

調印式において平野健一郎アジア歴史資料センター長は「アジア研究が新たな段階を踏み出す第一歩になった」と語り、伊澤雅子琉球大学附属図書館長は「沖縄だけでなく、国内外の多くの人の学習支援の一端を担えれば」と期待を込めて挨拶しました。臨席した大城肇学長は「今後も両機関が連携して資料を公開し、学習分野で各方面に貢献していきたい」と述べました。

今後は附属図書館が所蔵する「矢内原忠雄文庫植民地関係史料」など対象資料を順次拡大していく予定です。



調印の様子 左：国立公文書館アジア歴史資料センター長 平野 健一郎
右：琉球大学附属図書館長 伊澤 雅子



琉球大学長 大城 肇（右）を交えて

「イノベーションセミナー in 沖縄」を開催

6月14日に、内閣府沖縄総合事務局、全国イノベーション推進機関ネットワーク、一般財団法人日本立地センター主催によるイノベーションセミナー in 沖縄「地域資源を活用した沖縄産業の振興－沖縄発農工商連携の構築戦略－」が開催されました。本セミナーで、大城肇琉球大学長による基調講演が行われまし



「本事業の意義と琉球大学における今後の産学官」と題して基調講演を行う大城学長



「地域経済のカギは6次産業の構築」と題して講演を行う堀場会長

た。講演では「本事業の意義と琉球大学における今後の産学官連携」と題して地域活性化・産業活性化への琉球大学の使命と位置付け、地域モデル創出支援について述べました。また、「琉大イノベーションプラットフォーム」の構築を目指し、琉球大学は、地域活性化・産業活性化に人財の輩出とイノベーションの創出をもって貢献することを掲げ、講演を終えました。

続いて、堀場雅夫全国イノベーション推進機関ネットワーク会長による「地域経済のカギは6次産業の構築」と題して講演が行われました。

引き続き、吉川敏一京都府立医科大学長による講演、受田浩之高知大学副学長兼国際地域連携センター長、三浦健人株式会社アミノアップ化学学術部学術開発室室長による事例報告が行われました。参加者らは、終始熱心に講演・事例報告に聞き入り大変有意義な機会となりました。また、沖縄からイノベーションを起こそうという熱気にあふれたセミナーとなりました。



「地域資源を活かしてイノベーション創出へ」と題して講演を行う吉川学長



「地域資源に基づく6次産業化振興に果たす大学の役割～高知大学における人材育成と研究開発」と題して事例報告を行う受田副学長



「北海道における健康食品開発の歩みと今後～フード特区における機能性表示制度の実現に向けて」と題して事例報告を行う三浦学術開発室長

夏休み子ども自由研究 in コンベンションセンター2013 「おきなわ虫むしワールド」が行われました

風樹館では、沖縄コンベンションビューローと琉球朝日放送が主催する「夏休み子ども自由研究 in コンベンションセンター」に協力し、コンベンションセンター内の大きな会議室をまるまる一室使った「おきなわ虫むしワールド」展をプロデュースしました。

今年は8月3日～4日に開催され、2日間で4,500人以上が来場しました。展示会では、2,000種類を超える昆虫標本や沖縄の虫に関する解説パネルを多数展示したほか、マダガスカルオオゴキブリなどの生きた虫に触れるコーナー、ミツバチの巣箱の観察体験、蜜蝋を使ったロウソク作り、鱗粉転写標本作製教室、蚕の繭の糸引き体験、久米島博物館の学芸員によるカイコと久米島紬に関するワークショップなど、盛りだくさんのプログラムを実施しました。風樹館オリジナルの自由研究に役立つワークシートには、たくさんの子どもや親たちがチャレンジしていました。



カイコと久米島つむぎワークショップ



マダガスカルオオゴキブリにさわってみる

ラオス訪問団が琉球大学訪問

琉球大学では、平成 23 年度採択 JICA 草の根技術協力事業（草の根パートナー型）として平成 24 年度から「ラオスチャーガンじゅー学校・地域歯科保健プロジェクト」を実施しており、プロジェクトの一環として、ラオス側プロジェクト関係者が 5 月 20 日～ 25 日の日程で本学を訪問し、沖縄研修に参加しました。

これは、ラオス国シサタナーク郡における口腔衛生と健康との関連に関する啓蒙、効果的な学校歯科保健プログラムの導入・確立、歯科保健プログラムの地域への導入・拡大、地域・学校歯科保健を担う人材養成を目的としたプロジェクトで、現在現地にて病院や小学校、関係省庁と連携してプロジェクト活動を実施しています。このたび、カウンターパートであるセタティラート病院から病院長及び歯科部長、活動を実施しているシサタナーク郡教育局副局長及びモデル校の小学校校長 3 名の計 6 名が沖縄研修として本学や県内学校、病院等の視察、プロジェクト関係者とのワークショップを行いました。

一行は、5 月 21 日に大城肇学長、外間登美子理事を表敬訪問し、現地でのプロジェクト活動の報告や意見交換等を行いました。

滞在中、一行は本学医学部、附属病院、附属小中学校を訪問し、附属小学校では歯科検診の様子を視察しました。また、地域の保健所や歯科・小児科、小学校等を訪問し、視察や意見交換等を行いました。

同プロジェクトは 5 年間プロジェクトで、現地での歯科検診・治療、学校歯科保健活動等を行う他、ラオスへの専門家派遣やラオス側関係者の招聘等により人材育成を行います。

【ラオス訪問団】

- Dr. Khampe Phongsavat (カンペイ ホンサバット) セタティラート病院長
- Dr. Somphone Phanthavong (ソンポン ポンタボン) セタティラート病院歯科部長
- Ms. Khammack Phannavongxay (カマック パナボンサイ) シサタナーク郡教育局副局長
- Ms. Bounthavy Sayasenh (ブンサビー サイセン) ションペット小学校校長
- Ms. Phayvanh Katiyalat (パイバン カチアラット) ポンスイヌアン小学校校長
- Ms. Khounvilay Khenkitisack (クンビライ ケンキサク) トンカン小学校校長



前列左から、カンペイ病院長、カマック教育局副局長、大城学長、ソンポン歯科部長、外間理事
後列左から、和氣則江 医学部講師、小田切忠人 教育学部教授、仲宗根敏幸 附属病院助教、
クンビライ校長、ブンサビー校長、新崎章 医学研究科准教授、パイバン校長



附属小学校歯科検診視察

留学生による日本語劇が上演

留学生による日本語劇「落窪物語（おちくぼものがたり）」が、7 月 12 日 12 時から 12 時 40 分まで大学会館 3 階大ホールで上演されました。

「落窪物語」はシンデレラとも似た物語で、華麗な衣装に加えて、迫真の演技とコミカルな演技で会場は大いに沸きました。終了後アンコールの声もあり、来年の上演が今から楽しみです。



タイ王国Thammasat大学医学部と覚書を締結

琉球大学医学部は、7月22日に Thammasat 大学医学部と両医学部の、大学間交流協定に基づく覚書を締結いたしました。

Thammasat 大学医学部から Preecha 学部長外5名をお迎えし、Thammasat 大学医学部からのプレゼンテーションとディスカッションの後、両学部長による覚書の調印を行いました。

今後は、両大学間の更なる学術交流の促進が期待されています。



Thammasat 大学 Preecha 医学部長（左）、松下医学部長（右）



後列：Wisree, Prakitpunthu, Pist, 高山教授、岸本教授
前列：Jaakchai, Panadda, Preecha, 松下医学部長、石田医学科長、大屋教授

SATREPSボツワナプロジェクト研修員一行が表敬訪問

SATREPS ボツワナ研修員4名が、平成23年度採択SATREPS「ボツワナの乾燥冷害地域におけるヤトロファ・バイオエネルギー生産のシステム開発」プロジェクト（研究代表：鳥取大学）の一環として、本学における研修「ヤトロファにおける育種と栽培生理学」（7月2日～7月29日）の最終日に大城学長、外間理事を表敬訪問しました。

同行した鳥取大学農学部明石欣也准教授が研究代表者を務める同プロジェクトは、ボツワナにおけるバイオ燃料として有望なヤトロファ（ナンヨウアブラギリ）について、乾燥冷害に耐え生産性の高い品種とICT農法の開発、生物資源情報のデータベース化により、循環型バイオ・エネルギー生産モデルの構築に取り組むとともに生物学的アプローチで低炭素社会実現に貢献することを目標としており、本学では以下の項目を担当しています。

そのほか、理化学研究所の菊地淳教授、農学部川満芳信教授、上野正実教授、藪田伸ポスドク研究員らが同行し、研修の成果・今後の課題・展望等について懇談しました。

①琉球大学グループ研究テーマ：子実収量 2.5t/ha を目指した ICT 農法の開発

②グループリーダー：川満 芳信（琉球大学・教授）

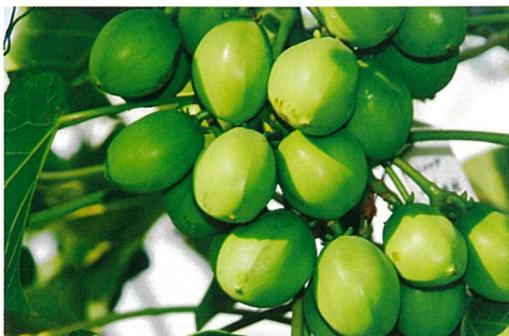
③研究項目：気象観測データモニタリングシステムの確立

計測データに基づき冷害を回避し乾燥を凌駕する農法の開発

ボツワナ在来系統の生理特性評価

遺伝資源、環境、土壌生物叢データを統合した GIS 開発

写真左：収穫前のヤトロファ果実
写真右：学長、理事を囲んで



工学部 藤井智史 教授が港湾協会論文賞を受賞

工学部 電気電子工学科 藤井智史教授が公益社団法人日本港湾協会から日本港湾協会論文賞を受賞しました。

日本港湾協会は、港湾の整備及び海岸保全に関する優れた論文を発表、又は計画、設計、施工に関して顕著な功績をおさめた個人又は団体に対して毎年論文賞にて顕彰しています。今回、土木学会論文集 B2(海岸工学)に掲載された「紀伊水道における短波海洋レーダを用いた津波・副振動観測」をはじめとする、短波海洋レーダにて世界で初めてとらえた津波の解析と津波観測レーダとしての技術的検討に関する一連の論文が対象となり、平成 25 年度日本港湾協会論文賞を受賞しました。

これらの研究は、国土交通省国土技術政策総合研究所(国総研)、関西大学、情報通信研究機構(NICT)、国際航業、長野日本無線などとの共同にて進められています。この中で琉球大学工学部は海洋レーダのハードウェアや信号処理などを主に分担して研究開発しています。科研費「海洋レーダによる津波観測の高度化」(平成 24 年～ 26 年)の研究の一部でもあり、本年の三菱財団の自然科学研究助成(代表:国総研 日向博文)にも選出されています。

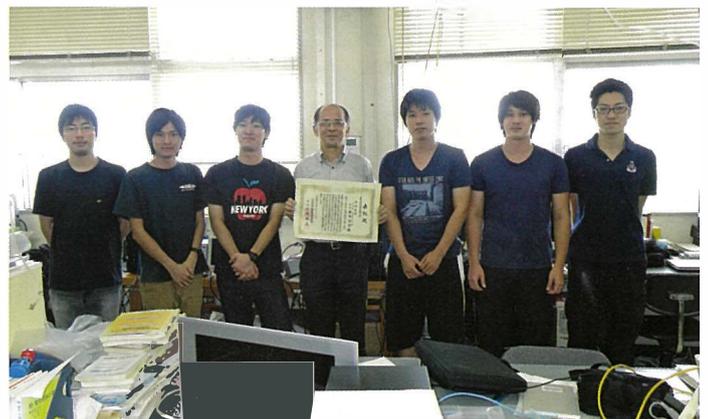
海洋レーダは、津波の検知・観測に利用できることは今回の研究でも明らかにされましたが、通常時には沿岸環境モニタリングや黒潮などの海流観測に活用できる技術であり、日本国内においては琉球大学や NICT 沖縄電磁波技術センターが中心的に研究開発を進めてきたもので、沖縄が技術開発のメッカになっています。



賞状の写真



現在、津波観測研究のために和歌山県美浜町に設置している海洋レーダ



研究室の学生と写した写真(真ん中が藤井です)

骨髄移植推進財団から医学部附属病院へ感謝状贈呈

琉球大学医学部附属病院骨髄移植センターの骨髄バンク事業への貢献に対して、この度、公益財団法人骨髄移植推進財団から感謝状の贈呈がありました。

平成 25 年 2 月 21 日、百名伸之骨髄移植センター長から村山病院長に報告がなされ、感謝状は骨髄移植センターに掲示されることになりました。



大城新学長を表敬訪問

同窓会では、4月5日、幸喜徳子会長ほか役員が琉球大学の第16代学長に就任した大城肇氏を訪問し、学長就任をお祝いするとともに、琉球大学と同窓会との連携の強化などについて意見交換を行いました。

学長は、居住地域によって教育を受ける機会に差が出ないように主な離島や本島北部などの遠隔地に「サテライト・カレッジ」を設置する事業について熱い思いを語っておられ、その運営に同窓会との連携が重要になると強調していました。

同窓会としても、地域への「知の貢献」についてより積極的な役割を果たすべく一般県民を対象としてシンポジウム等の開催を行ってきたところであり、これから琉球大学と連携しながら、大学の新しい施策、構想の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。



*写真（左から）：
儀保博信同窓会副会長・仲門勇市同窓会副会長・
幸喜徳子同窓会長・大城肇琉球大学学長・照屋寛
八同窓会副会長・比嘉忠信同窓会事務局長

岩政 輝男 前学長から琉球大学後援財団へ寄附金の贈呈

5月7日、岩政輝男 前学長から琉球大学後援財団に、平成26年度より実施する「国際交流支援事業基金」へ多額の寄附がありました。

これは、かねてから前学長が推進していたラオス国の教育研究支援に寄与することを目的とし、琉球大学の教職員またはラオス国の同事業関係者の派遣・受け入れを推進するもので、必要な経費の補助を行うこととしており、助成対象者には一人あたり30万円を上限に支援を行う予定です。

本学とラオス国との交流は、琉球大学-JICAによる公衆衛生プロジェクトを皮切りに、ラオス国立大学との交流協定締結等、教育研究の面や国立大学病院及び附属小学校の設置等、幅広く行われております。

故 古謝 景春元琉球大学理事・副学長の御遺族が寄付

平成14年から医学部附属病院長、また平成16年から琉球大学理事・副学長を勤められ、沖縄県の心臓血管外科の進歩・発展に大きく寄与されました古謝景春元琉球大学理事・副学長が、本年4月3日に急逝されました。この度、奥様の古謝文子様、ご家族様より、御遺志を継ぐべく本学へ5月に多額の寄付を頂きました。

琉球大学へ課外活動奨励金を贈呈

幸喜徳子会長及び仲門勇一副会長が5月27日、琉球大学を訪れ、大城肇学長に対し学生の課外活動奨励金として100万円を贈呈しました。

同窓会は、平成元年から琉球大学への支援事業として学生の課外活動を奨励するこの寄付金贈呈を行っているほか、卒業生及び在学生の就職支援活動として教員採用試験対策講座（受講料無料）を開設しており、本年度も去る4月17日から実施中です。

大学によると、昨年度の奨励金は、スポーツ系クラブの県外での大会等への派遣や文化系クラブの県内の発表会への出場など、述べ22団体（学生総数328人）においてそれぞれの課外活動での学生の負担軽減に有効に活用されており、課外活動を奨励する観点から大変ありがたい、と学長から感謝の言葉がありました。



国立大学法人琉球大学の役職員の報酬・給与等について（概要）

総務大臣が定める「国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）」に基づき、平成24年度における本法人の役職員の報酬・給与等について、次のとおり公表します。

なお、本紙はガイドラインに定める公表事項の概要を示すものであり、詳細については、「国立大学法人琉球大学公式ホームページ」をご覧ください。

URL http://www.u-ryukyuu.ac.jp/univ_info/general/houjin_siryou/yakuin_housyu/

I 役員報酬等について

◇ 役員報酬等の支給状況

役名	平成24年度年間報酬等の総額				就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任		
法人の長	千円 15,935	千円 11,643	千円 4,291	千円 ()		3月31日	
A理事	千円 12,646	千円 9,204	千円 3,392	千円 49 (通勤手当)		3月31日	
B理事	千円 12,646	千円 9,204	千円 3,392	千円 49 (通勤手当)			
C理事	千円 12,646	千円 9,204	千円 3,392	千円 49 (通勤手当)		3月31日	
D理事	千円 12,621	千円 9,204	千円 3,392	千円 24 (通勤手当)		3月31日	※
E理事	千円 10,956	千円 7,151	千円 2,897	千円 49 (通勤手当) 858 (地域手当)	4月1日		◇
A監事	千円 11,722	千円 8,565	千円 3,157	千円 ()			※
B監事 (非常勤)	千円 480	千円 480	千円 ()	千円 ()	4月1日		

注1 「地域手当」とは、就任直前に、民間の賃金水準が本法人より高い地域に在勤していた役員に支給しているものである。

注2 「前職」欄の「◇」は役員出向者であることを、「※」は独立行政法人等の退職者であることを示す。

注3 総額、各内訳について千円未満切捨てのため、総額と各内訳の合計額は必ずしも一致しない。

II 職員給与について

◇ 職員給与の支給状況

区分	人員	平均年齢	平成24年度の年間給与額(平均)			
			総額	うち所定内		うち賞与
				うち通勤手当		
常勤職員	人 1,402	歳 46.3	千円 6,327	千円 4,723	千円 49	千円 1,604
事務・技術	人 314	歳 44.1	千円 4,964	千円 3,743	千円 47	千円 1,221
教育職種 (大学教員)	人 733	歳 49.1	千円 7,473	千円 5,538	千円 47	千円 1,935
医療職種 (病院看護師)	人 242	歳 42.1	千円 5,025	千円 3,794	千円 50	千円 1,231
技能・労務職種	人 8	歳 51.5	千円 4,863	千円 3,696	千円 54	千円 1,167
教育職種 (附属義務教育学校教員)	人 32	歳 42.5	千円 6,372	千円 4,851	千円 72	千円 1,521
医療職種 (病院医療技術職員)	人 71	歳 41.5	千円 5,125	千円 3,880	千円 53	千円 1,245
その他医療職種 (看護師)	人 2	歳 —	千円 —	千円 —	千円 —	千円 —

■ 学年暦 ※1

前 学 期	
(平成25年)	
4月1日(月)	学年及び前学期開始
4月1日(月)	成績通知書交付・時間割表配布
4月2日(火)	新生オリエンテーション
4月4日(木)~4月5日(金)	
4月2日(火)~4月5日(金)	前学期仮登録
4月3日(水)	入学式
4月9日(火)~4月23日(火)	定期健康診断
4月9日(火)	前学期履修登録確認表配布
4月10日(水)	前学期授業開始
4月10日(水)~4月23日(火)	登録調整期間
4月30日(火)	月曜日授業振り替え(※4)
5月22日(水)	開学記念日(休講)
5月22日(水)	体育祭(休講)
6月1日(土)~10月31日(木)	教育実習
6月23日(日)	慰霊の日
7月18日(木)	月曜日授業振り替え(※4)
7月20日(土)	琉球大学説明会(オープンキャンパス)
7月31日(水)~8月6日(火)	前学期試験期間(※2)
8月7日(水)	英語全学統一テスト(※5)
8月8日(木)	予備日(※3)
8月9日(金)	英語全学統一テスト予備日(※5)
8月10日(土)~9月23日(月)	夏季休業
8月19日(月)~8月21日(水)	一斉休業日
9月24日(火)	成績通知書交付・時間割表配布
9月24日(火)~9月27日(金)	後学期仮登録(24日は午後から)
9月28日(土)~9月29日(日)	琉大祭
9月30日(月)	前学期終了

後 学 期	
(平成25年)	
10月1日(火)	後学期開始
10月1日(火)	後学期履修登録確認表配布
10月2日(水)	後学期授業開始
10月2日(水)~10月16日(水)	登録調整期間
10月16日(水)	月曜日授業振り替え(※4)
11月6日(水)	月曜日授業振り替え(※4)
12月3日(火)	推薦入試(休講)
12月26日(木)	月曜日授業振り替え(※4)
12月28日(土)~1月5日(日)	冬季休業
(平成26年)	
1月6日(月)	後学期後半授業開始
1月17日(金)	午後:センター試験準備(終日休講)
1月18日(土)~1月19日(日)	大学入試センター試験
1月30日(木)~2月5日(水)	後学期試験期間(※2)
2月6日(木)	予備日(※3)
2月7日(金)	英語全学統一テスト(※5)
2月13日(木)	英語全学統一テスト予備日(※5)
2月14日(金)~3月31日(月)	春季休業
2月25日(火)~2月26日(水)	入学者選抜第2次試験「前期日程」
3月12日(水)~3月13日(木)	入学者選抜第2次試験「後期日程」
3月20日(木)	卒業式
3月31日(月)	学年及び後学期終了

※1: 医学部医学科第3年次以降の学年暦はこの学年暦に準じ、医学部において定める。
 ※2: 試験期間は期末試験や補講を行う。
 ※3: 予備日は台風等で全学休講になった日の授業又は定期試験を行う。
 ※4: 4月30日(火)、7月18日(木)、10月16日(水)、11月6日(水)、12月26日(木)は月曜日の振替日とし、他の曜日の講義・試験・補講・実習等を行わない。
 ※5: 大学英語の受講者が対象。(後期は前期末履修者のみ)

大学からのお知らせ

授業料の納入について

○授業料納入期限
(口座振替日)

前 学 期	後 学 期
4月30日	10月31日

期限内に必ず納めてください。大学での教育は皆様の授業料で賄われております。
 ※期限後、督促をしてもなお未納の場合は除籍になりますので、特にご注意ください。

支払いを
忘れそう...

銀行振込する
時間がない...

そんなときは
口座振替

をご利用ください。

口座振替に関する問い合わせ先

琉球大学財務部経理課収入・支出係 [電話番号] 098-895-8058

※授業料の口座振替日が休日の場合は、金融機関の翌営業日に振替します。

授業料の金額については、下記を参照ください。

[大学公式ホームページ]→Contentsの【学生生活】→【授業料・入学料等の金額について】[PDF]
http://www.u-ryukyu.ac.jp/internal/campus_life/schoolfees/schoolfees.pdf

保護者の皆様へ

本誌は、入学時に登録された学生の保護者等の住所へ送付しております。
 住所変更等がございましたら、学生本人から、学生の所属する学部まで届け出るようお願いします。

琉大ニュースレターは琉球大学公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.u-ryukyu.ac.jp/>

[大学公式ホームページ]→【大学情報】→【広報】→【琉大ニュースレター】

携帯電話で下記のQRコードを読み込むと、琉球大学の入試情報ケータイサイトにアクセスできます。

※バーコードリーダー機能付きの携帯電話で読み取れます。「琉球大学入試情報ケータイサイト」 <http://daigaku.jp/u-ryukyu/>

QRコード

